

火頭山田種

の3

彦春野田



初めに

意味を追いながら種田山頭火の自由律俳句を英訳しています。

句集『其中一人』から12句、そして『行乞途上』から9句の計21句を選びました。

本書では1ページに3句ずつ表示して、訳は句のすぐ後にあります。

日本語表記は現代仮名遣いに直しました。

種田山頭火について：

行乞しながら自由律俳句を作り続けた俳人です。

没年は昭和15年です。

CGイラストレーションについて：

山頭火の世界を複合的にイメージしながら制作しておりますので、必ずしも特定の1句をイラストにしたと云うわけではありません。また、原画CGのサイズは724×1024ピクセルまたは640×480ピクセルです。

制作に使用した画像処理ソフトウェアは次の通りです。

ArtRage 3 Studio Pro（アンビエント社）

Photoshop Elements 10（アドビシステムズ株式会社）

参考文献について：

次の文献を参考にしました。

山頭火句集（ちくま文庫）

2000年6月15日 第5刷発行

ジーニアス英和辞典〈改訂版〉2色刷り（株式会社大修館書店）

1994年4月1日 改訂版初版発行

新コンサイス英和辞典〈革装〉第3刷（株式会社三省堂）

昭和50年9月15日 第1刷発行

Longman Dictionary of American English (Longman Inc.)

First printing 1983

製品名等はメーカー等の登録商標等です。

本書は著作権法により保護されています。

句集『其中一人』より 1 2 句



其中一人 : Therein Alone

ひっそりかんとしてぺんぺん草の花ざかり

All is silent and deserted around here and shepherd's-purses are in full bloom.

誰か来そうな空が曇っている枇杷の花

The loquat blossoms tell me that someone may come under the cloudy sky.

いつしか明けている茶の花

Before I know, it has dawned with a whisper of blossoms of tea plants.



雨ふるふるさとははだしであるく

The rain falls in my homevillage and I walk in bare feet.

ゆう空から柚子の一つをもらう

I am given a citron under the evening sky.

月が昇って何を待つでもなく

Although the moon has already risen, I do not intend to wait for anything and I have nothing to do.

草の実の露の、おちつこうとする

I try to settle down, like a dew on a grass seed.

すずめおどるやたんぽぽちるや

Sparrows are dancing and seeds of dandelions are scattering.

落葉ふる奥ふかく御仏を観る

I feel a budha in the depth of woods, where the leaves fall.



かるかやへかるかやのゆれている

A wind blew to the eulalia, whose shape is swinging.

一人の火の燃えさかりゆくを

I alone watch a wood fire burning fiercely.

雪へ雪ふるしずけさにおる

I keep still to the quiet of the snow which falls onto the snows.

句集『行乞途上』より9句



行乞途上 : In the midst of religious austerities for begging

きょうもいちにち風をあるいてきた

All today together with winds, I have walked and come as usual.

あるけばきんぽうげすわればきんぽうげ

If I walk then buttercups follow me, and if I sit down on the ground then buttercups sit down too.

何が何やらみんな咲いている

All and everything are in bloom.



いそいでもどるかなかなかなかな

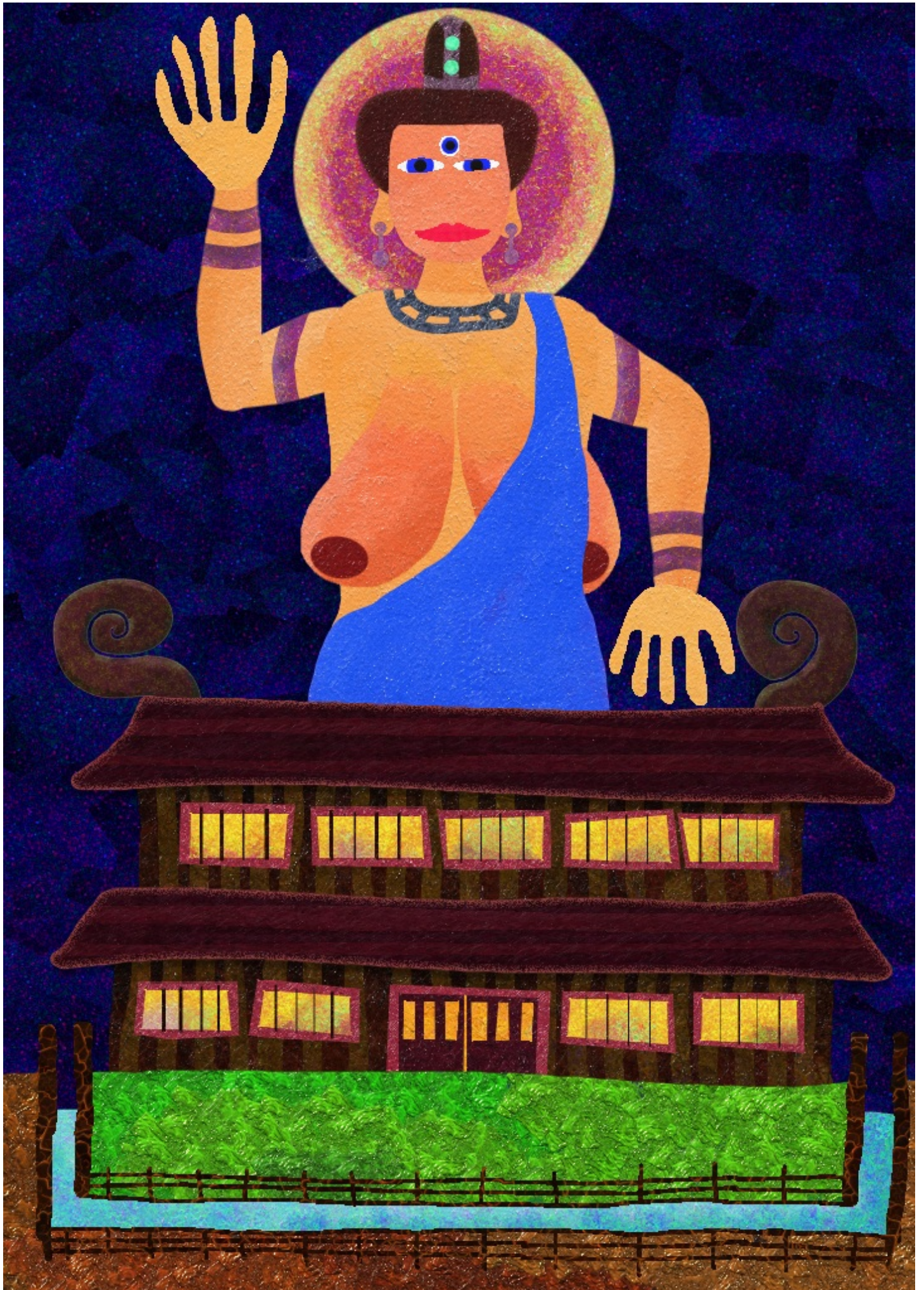
I return in a hurry with chirps of cicadas.

旅の法衣がかわくまで雑草の風

I wear a wind on weeds until my clerical robes for a journey dry.

かたむいた月のふくろうとして

I gaze at the declining moon instead of an owl.



水をへだてておなごやの灯がまたたきだした

The lights of a prostitute house have begun to gleam beyond the moat.

うつむいて石ころばかり

I looked downward and found stones only.

松かぜ松かげ寝転んで

I lie down within the shade of a pine tree under a breeze coming through pine trees.

終りに

著者について：

茜町春彦（あかねまちはるひこ）と申します。2004年より活動をはじめたフリーランスのライター&イラストレーターです。作品が社会の進歩に多少なりとも寄与することを願いながら、日々制作を行なっています。

次回作について：

山頭火の句集『山行水行』と『旅から旅』より、本書と同様の英訳およびイラスト制作をする予定です。

（2013年 4月 茜町）

種田山頭火 その3 (其中一人・行乞途上より21句：イラスト・英訳)

<http://p.booklog.jp/book/69257>

著者：茜町春彦

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/akaneharu/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/69257>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/69257>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ